

# 中野高架橋

阪神高速で初めて採用された波形鋼板ウェブ橋



施主	阪神高速道路公団
施工場所	兵庫県西宮市
完成年	2002年
橋長	508.3m(東行き) 505.2m(西行き)
最大支間長	84.546m(西行き)
形式	4径間連続波形鋼板ウェブ橋
全幅	9.25m(一般部)
架設工法	固定式支保工(当社施工部分) 片持ち張出し架設(他社施工部分)
受賞	PC技術協会 作品部門 2002年
参考文献	橋梁と基礎 2003年 4月      コンクリート工学 2000年 12月

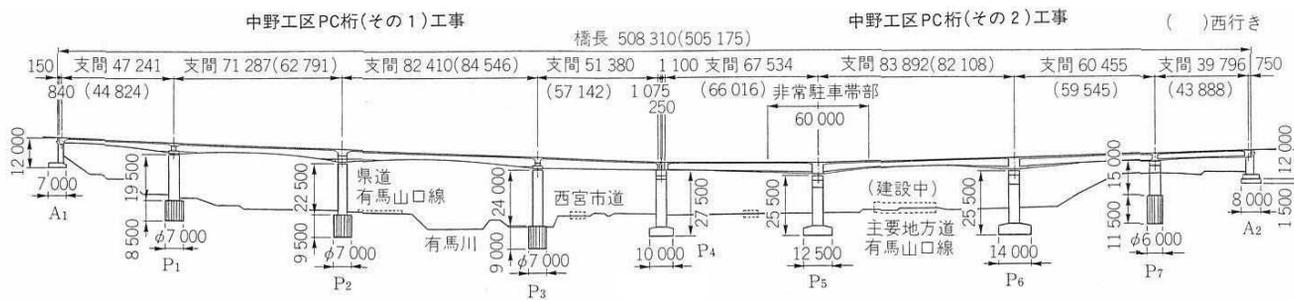
阪神高速北神戸線は六甲山の北側に位置し、本橋はこの路線が有馬川を交差する位置に架けられている。

波形鋼板ウェブ橋としては曲線橋に対応した事例の少ない橋梁となっている。

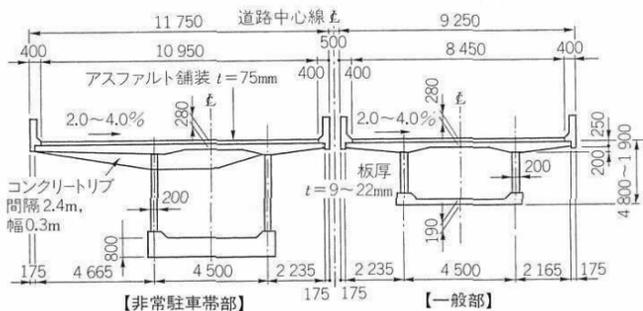
本線部分でR=400m、ランプ橋部分でR=250mとなっている。

波形鋼板には、メンテナンス費用の軽減が期待できる耐候性鋼板が用いられている。波形鋼板の接合は、支保工施工される区間については1面すみ肉溶接が採用されている。上床版とウェブとの接合には、CT形鋼とスタッドジベル、横貫通鉄筋による方式が用いられている。

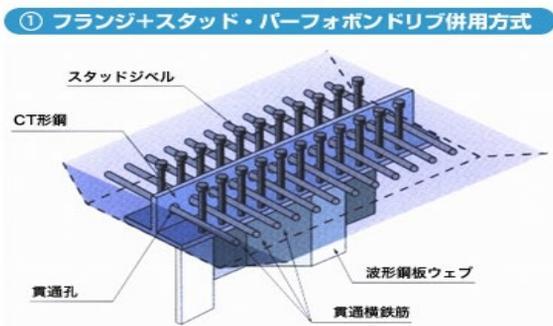
側面図



断面図



波形鋼板の上部接合構造



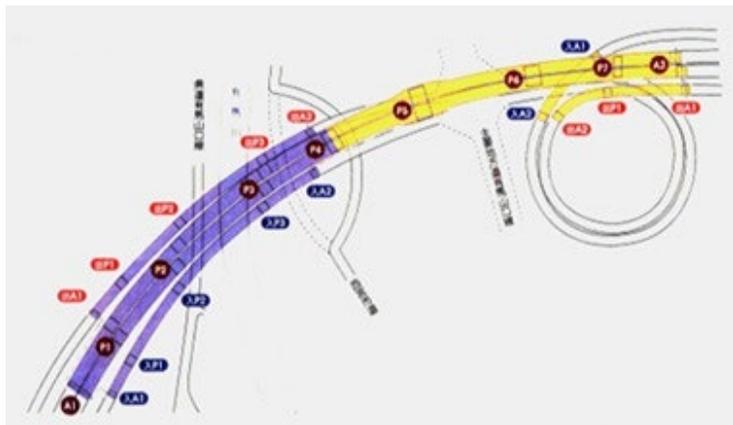
支保工による施工



波形鋼板の固定



耐候性鋼板の波形ウェブ



高架橋の全体平面図